

愛知県稲作経営者会議 栽培技術研究会

令和4年1月28日

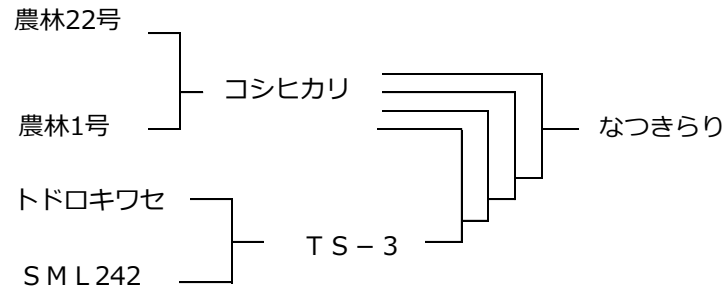
# 「なつきらり」の栽培方法

愛知県農業総合試験場作物研究部作物研究室  
主任研究員 遠山孝通

# 育成経過

**育成期間** 2004年～2013年  
2014年3月 品種登録出願、2017年8月 品種登録

**組合せ** コシヒカリ\*4/TS-3



## 品種の特徴

良品質。良食味。胴割が発生しやすい。低温時に根が伸びにくい。



「なつきらり」



「コシヒカリ」



# 生産目標値

①玄米蛋白質含有率 6.2% (水分14.5%)

②検査等級 1 等

## 生育の目安

- ・精玄米重 4 8 0 kg/10a
- ・稈長 8 5 cm 穂長 2 1.5 cm 穂数 3 7 0 本/m<sup>2</sup>
- ・登熟歩合 8 0 %
- ・千粒重 2 1. 7 g

## (参考) 品質基準値

①玄米蛋白質含有率 6.4% (水分14.5%)

②検査等級 1 等

# ほ場の選定と施肥

## ①施肥制御が可能な地力レベル

極端に肥沃なほ場をさけ、培養窒素 1 ～ 4 mg/100g、  
全窒素 0.08 ～ 0.16 %程度。

## ②やや深めの作土深

根の張りを良くして良品質な品種特性を活かすために、  
作土深は 14 cm程度を確保。

## ③専用肥料と土壌診断

生育後半の肥効を抑えた専用肥料を使用する。  
初めて作付けする場合は「コシヒカリ」の作付け経験に  
加え、土壌診断による施肥量を参考にする。

# 施肥量早見表（側条施肥）

作土深： 14cm

培養窒素量 (mg/100g)	土壌の全窒素含量（％）						
	0.08	0.10	0.12	0.14	0.16	0.18	0.20
1.0	34	32	30	28	27	25	23
2.0	30	28	26	24	22	20	18
3.0	25	23	21	19	17	15	13
4.0	20	18	16	15	13	11	—
5.0	16	14	12	10	—	—	—
6.0	11	—	—	—	—	—	—

注 専用肥料 窒素：リン酸：カリ＝26：11：9

栽培期間を4月26日から8月22日とし、名古屋のアメダス平均気温を用いて、成熟期の窒素吸収量が10アールあたり9kgとなるように計算した。

※ 実際の窒素利用率は、気象経過とイネの生育、ほ場により異なる。  
土壌診断したほ場の栽培結果を参考にして、他の生産ほ場の施肥量にあたりを付ける。

# 育苗と移植

## ①マット形成

低温時の育苗では温室の温度管理に気を付ける。

「コシヒカリ」に比べ、18℃の定温168時間で約1cm  
最長根長が短い。25℃定温では、ほとんど差がない。

## ②適期収穫が出来る移植時期

「コシヒカリ」と同熟期なので収穫作業時期を重ねない。  
「コシヒカリ」より前に収穫し胴割米の発生を防ぐ。

## ③栽植密度

穂揃いを良くするために60株/坪植えとし、田植同時剤  
などの除草剤の施用に留意して初期につまづかない管理。

# 水管理（基本技術）

## ①中干し

茎数が20本になったら中干を開始し・・・  
田面にひび割れができる程度を標準。

## ②登熟期間の间断灌漑

穂揃期以降、间断灌漑を実施。

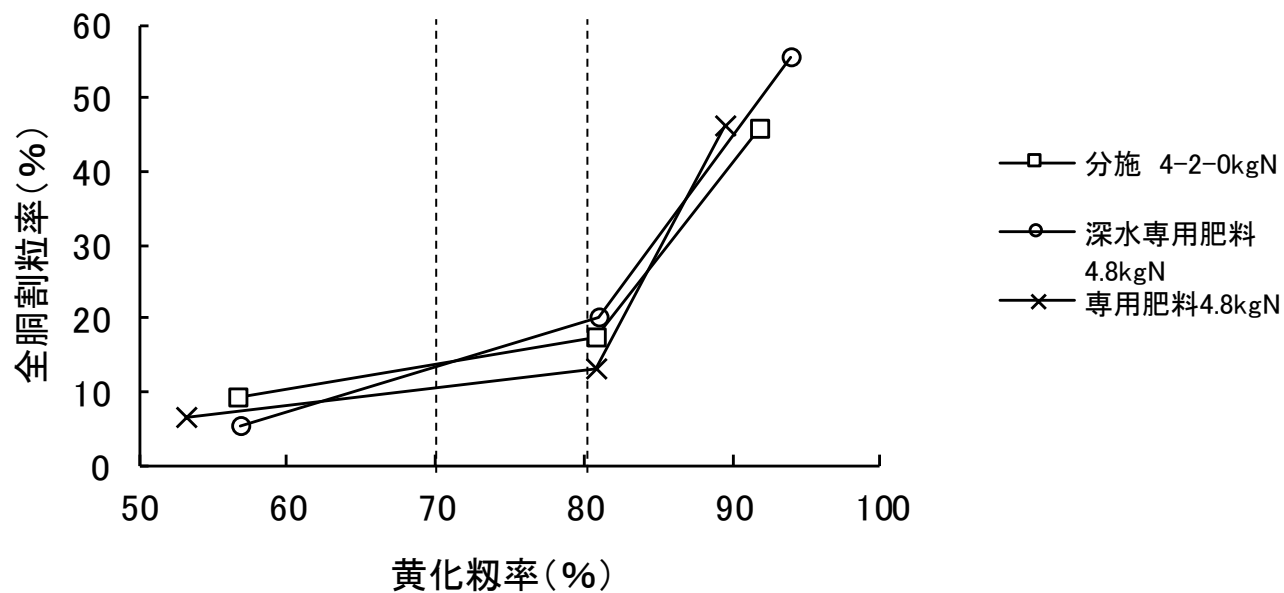
## ③早期落水の防止

落水は刈り取りの1週間前以降を目安として  
ほ場の乾きやすさに応じて調整する。

# 適期収穫

## 刈り取り指標

黄化率 70～80%。（高温年、平年）



黄化率と全穂割粒率（2017年）



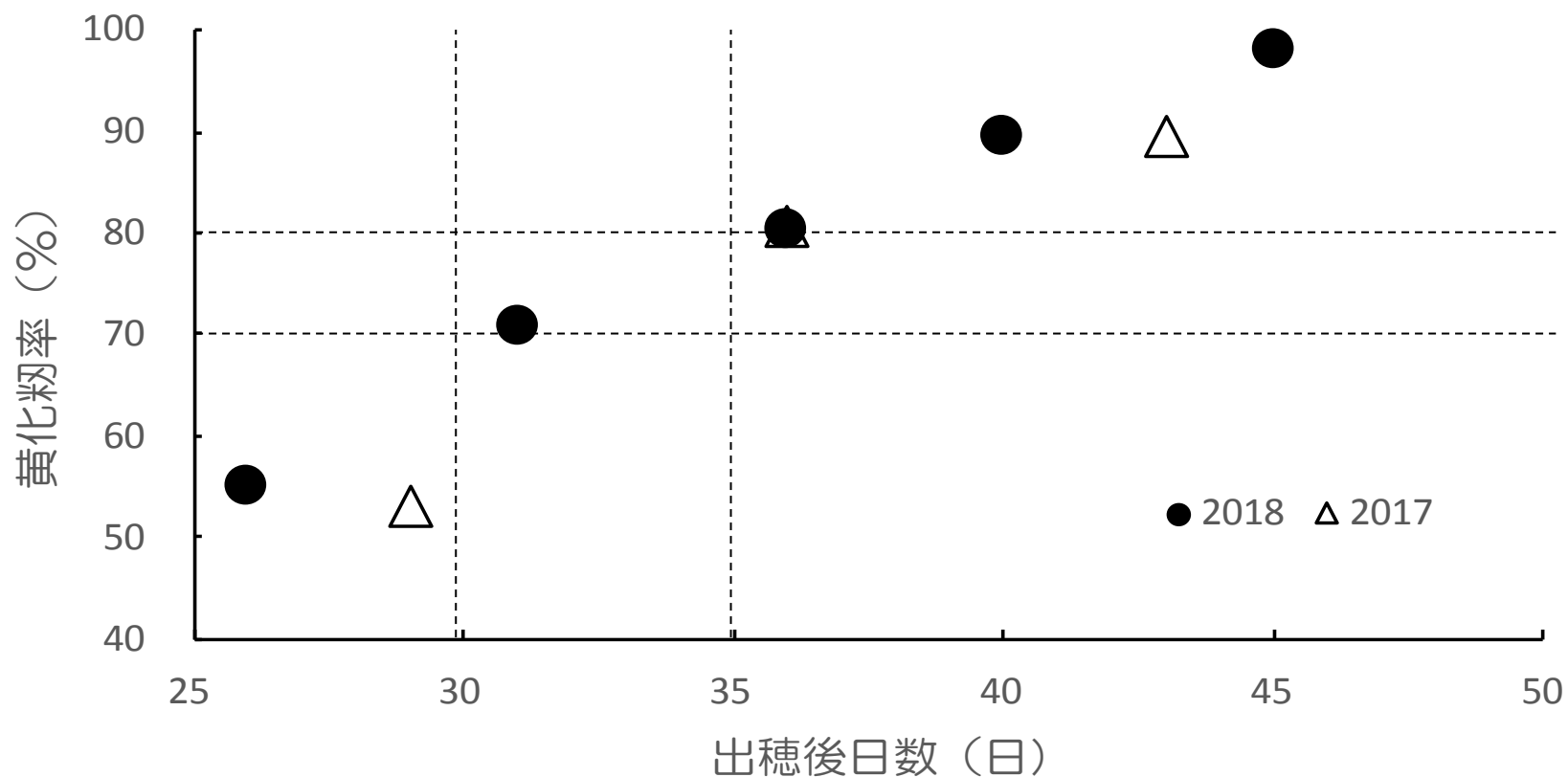


穂が長い、  
穂揃いが悪い  
要注意

黄化率 6.3%



黄化率 7.8%



### 出穂後日数と黄化率

注 2018年、2019年 農業総合試験場（長久手市）

# 乾燥調製

## ①収穫後の速やかな乾燥調製（6ページ）

粳水分 14～15%に仕上げる。

## ②ふるい目 1.85mm

流量を控えめにして充実の良い玄米を選別する。

## ③色彩選別機の活用

斑点米等が目立つ場合には、適宜色彩選別機を利用。

## ④出荷まで涼しいところで保存

# まとめ

- ①低温時の育苗に注意。
- ②生育を控えて、良食味を目指す。
- ③早めの収穫で胴割対策。
- ④除草、水管理、病害虫防除を徹底。

